

にっぽん文楽

Nippon Bunraku
in 上野の杜

「春は桜
秋は文楽」
―飲みながら食べながら上野



榎茂都陸平 振付

「万才・関寺小町」

花菱四季寿より

竹本千歳太夫、豊澤富助、吉田和生ほか

「増補大江山 戻り橋の段」

豊竹睦太夫、野澤錦糸、吉田玉男ほか

総合プロデューサー…中村雅之



2017年10月14日(土)～17日(火)

[昼の部] 開場11:30 開演12:30 終演予定14:00頃

[夜の部] 開場17:30 開演18:30 終演予定20:00頃

※雨天荒天の場合は中止となります。

中止のご連絡は、にっぽん文楽ホームページ(<http://www.nipponbunraku.com>)でお知らせします。

※会場は屋外のため、寒暖対策には、ご自分で十分ご注意ください。

※会場内での飲食および持ち込みは自由です。

会場:上野恩賜公園(噴水前広場)

チケット料金:2,000円(全席自由)

チケット発売:7月15日より

チケット取扱い:チケットぴあ(0570-02-9999 Pコード:480262)

ローソンチケット(0570-084-003 Lコード:32414)

お問合せ:にっぽん文楽プロジェクト(TEL03-6233-8948、平日10:00～17:00) <http://www.nipponbunraku.com>

写真:青木信二

主催:日本財団 制作:一般財団法人 にっぽん文楽プロジェクト 制作協力:公益財団法人 文楽協会

協力:独立行政法人 日本芸術文化振興会、酒蔵文楽、東京藝術大学、上野観光連盟

後援:東京都、台東区

上野で「文化の秋」を満喫する

総合プロデューサー 中村雅之 (横浜能楽堂館長 / 明治大学大学院兼任講師)

春のお花見に限らず、上野は一年中にぎわっています。芸術大学、コンサートホール、美術館・博物館、動物園と日本を代表する文化機関・施設が揃っているからです。そこに、ひと時ではありますが、「人形浄瑠璃 文楽」が加わります。「文化の秋」、美術館や動物園を巡った前後、「にっぽん文楽」を見て、一日、上野で過ごしてみませんか。

5回目の「にっぽん文楽」。今回も、竹本千歳太夫・豊澤富助・吉田和生・吉田玉男ら太夫・三味線・人形それぞれ、一線級が顔を揃えました。演目は、文楽では「景事」と呼ばれる音楽性豊かな舞踊の要素が強い小品を2つ。誰が見ても楽しめる、華やかさあり、サプライズありの演目です。

舞台は、移動自由の組立て式ですが、銘木の産地・吉野から切り出された檜をふんだんに使った本格的なもの。さらに金の飾り金具が、豪華さを演出しています。木綿のまん幕には、伝統的な染めの技術で「にっぽん文楽」の紋が染め抜かれています。

屋外の開放的な空間で、飲みながら、食べながら、ゆったりと文楽を楽しむ一というのがコンセプトの「にっぽん文楽」に、今回から新たな楽しみが加わりました。埼玉・上尾で、百数十年にわたり酒造りを続ける「酒蔵 文楽」が限定醸造した「にっぽん文楽」が販売されます。もちろん自分のお気に入りのお酒やおつまみを持ち込むのも自由です。

初日・2日目の昼と夜の公演の間には、会場周辺で、東京藝術大学との特別コラボレーション企画もあり、「にっぽん文楽」を盛り上げます。音楽学部学生の邦楽・洋楽混成の音楽隊「藝大Artチンドン」が、作曲家である松下功副学長が作曲した曲を演奏しながら練り歩き、それに合わせて「せんとくん」で知られる彫刻家の籾内佐斗司美術学部教授が製作した巨大人形がパフォーマンスを繰り広げます。併せてお楽しみください。

(特別コラボレーション企画は、変更される場合もございます。ホームページでご確認の上、ご来場ください)

演目・出演

まんざい せきでらこまち
「**万才・関寺小町**」はなくらべしきのことぶき ~花鏡四季寿より 榎茂都陸平 振付
太夫 / 竹本千歳太夫、豊竹始太夫、竹本碩太夫
三味線 / 豊澤富助、野澤喜一郎、野澤錦吾
人形 / 太夫: 吉田文昇、才蔵: 吉田玉佳、関寺小町: 吉田和生

ぞうほ おおえやま
「**増補大江山**」もどりぼしのだん 戻り橋の段
太夫 / 若菜: 豊竹睦太夫、渡辺綱: 豊竹靖太夫、
ツレ: 竹本碩太夫
三味線 / 野澤錦糸、野澤喜一郎、八雲: 鶴澤清丈、八雲: 野澤錦吾
人形 / 渡辺綱: 吉田玉男、若菜: 吉田篁二郎

「解説」

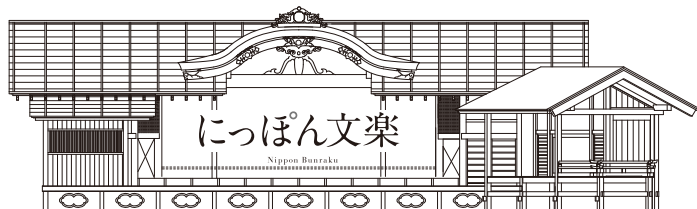
太夫: 豊竹睦太夫 / 三味線: 野澤錦吾 / 人形: 吉田玉誉

人形部: 吉田玉勢、桐竹紋吉、吉田玉翔、吉田玉路、吉田和馬、
吉田玉延、吉田和登

囃子: 望月太明蔵社中

※内容・出演者に変更がある場合があります。あらかじめご了承ください

総合プロデューサー: 中村雅之
アシスタントプロデューサー: 榎本かおり (BOX4628) / アドバイザー: 宮本芳彦 (宮本卯之助商店)
グラフィックデザイン: みやはらたかお
舞台監督: 山添寿人 / 舞台機構・大道具: 関西舞台 / 音響・照明: ピーエーシーウエスト
組立施工: 葉の実建築工房 / 幔幕製作・施工: 宮本卯之助商店
運営ディレクター: 原昇 / 運営: ミュージメントワークス
建築設計・監理: 田野倉建築事務所 / 構造設計・監理: 福山弘構造デザイン



演目解説

「万才・関寺小町 花鏡四季寿より」

春は「万才」、夏は「海女」、秋は「関寺小町」、冬は「鶯娘」と春夏秋冬にちなんだ人物が登場して踊る。それぞれ単独で上演することもある。「万才」では、太夫・才蔵の二人組が、新年を寿ぎ、小鼓を賑やかに打ち鳴らしながら正月の町を門付して歩く。「関寺小町」では、百歳の老女となったかつての絶世の美女・小野小町が、昔の華やぎをしのびながら庵へ帰って行く。「万才」は地歌、「関寺小町」は能と関わりが深い。

「増補大江山 戻り橋の段」

大江山の鬼退治で有名な源頼光の四人の家来は、主人にも負けない豪傑として知られ「頼光四天王」と呼ばれている。その内の一人、渡辺綱が、鬼女の片腕を切り落とした、という伝説を基とした作品。ある日の夜、綱が京・一条の戻り橋に差し掛かると、美しい女が佇んでいた。行き先を尋ねると五条まで行くと言うので、送ろうと一緒に歩き始める。フツと川面を見ると、そこには美女ではなく、恐ろしい鬼の姿が映っていた。綱は「本性を現せ」と詰め寄り、格闘が始まる。この激しい立ち回りが見どころ。一瞬にして、美女が鬼女に、また鬼女が美女に戻る。この特殊な首は「ガブ」と呼ばれる。

酒蔵 文楽

明治時代、青雲の志に燃えた亀吉という青年が仲間とともに、滋賀から埼玉・上尾に移り住み、酒蔵を立ち上げました。文楽をこよなく愛した亀吉は、「太夫・三味線・人形遣い」のように、「米・麴・水」が三位一体となった素晴らしい日本酒を造りたい、という思いを込め、銘柄に「文楽」と名付けました。

